

からしだね通信

10

1 巻頭言
2 L G B T Qを知る・理解する
3 センター報告・ワークス報告
4 おしらせ・編集後記
5
6
7
8

こんな時代だからこそー

からしだね館で、ブックカフェを開始してから早くも半年以上がたちます。最初の話があったのが昨年10月ですので、それからもう一年です。なにしろ、不思議ないきさつでした。コロナが無ければ、おそらくからしだねで書店をやることはなかったでしょう。ただでさえ、街の本屋さんが消えて行く時代です。厳しいのは承知の上、それでも、街の中にリアルな書店が在ることの意味やそのありがたさを思い、あえて「火中のクリ拾い」に足を踏み入れました。お蔭さまで今日まで、多くの皆さまのご協力を頂き、コロナの影響は受けつつも、何とか頑張っております。皆さまのご協力に心から御礼申し上げます。

さて、IT オンライン真っ盛りのこの時代、時代に逆行するようなリアルな本屋さん（しかも小さな）に、あえてこだわるのは、いったい何なのでしょう？

先日新聞に、「GAFAに挑む法律家」という記事が出ていました。

Google や Facebook など巨大な IT 企業を相手に、個人のプライバシーを尊重していないと訴訟闘争をしているオーストリアの青年法律家の話です。

利用者の個人情報を収集し、個人の人物像に合わせた広告に利用している、巨大 IT がやっているその仕組みは問題だと。

「プライバシーのあり方は、民主主義と法律によって定められるべきだ。だが、今はシリコンバレーがすべてを決めている」と青年は訴えます。そうすると、自分の思想や関心や嗜好、行動までもが自分ではない誰かの手で作られていく、ということにもなるわけです。

IT やオンラインは、いまや私たちの社会のある種「ルール」にさえなってきました。そうしたのか、そうさせられたのか分かりません。

時代の流れは変えられないとしても、でも、そこにどんなリスクがあり、何を犠牲にしているのか。それは、常に意識しておかなければならない、と思うのです。

こんな時代だからこそです。

じっくり、ゆっくり、時間をかけて、小さいところから本当の自分をつくっていく。

じっくり、ゆっくり、本当のあなたをつくってほしい。

じっくり、ゆっくり、みんなと本当の対話がしたい。

そしてじっくり、ゆっくり、いい社会をつくっていきたい。

小さくても、そのような場に、からしだね書店がなればと思っています。

理事長 坂岡隆司

特集 Part.1 性の多様性をどう考える？

2021年は、コロナが蔓延するなかで、東京オリンピック、パラリンピックが開催されました。そこでさかんにアピールされたのが、『多様性』でした。なかでも性的マイノリティの多様性を象徴するレインボーカラーは目をひきました。パラリンピックでは28人、オリンピックでは182人が自ら性的少数者であることを公表したとのことです。

ただ、LGBTQに関しては、福祉のテキストにもほとんど取り上げられることなく、からしだね職員も学ぶ機会を持たないままに仕事をしているのが現状です。10人に1人はなんらかの性的な違和感をもっていると言われていいるのですから、じつは福祉に携わる私たちこそ、相談援助の基礎的な知識とマナーとして、知っておかなければいけないことではないでしょうか。

からしだねでは、LGBTQについて職員の意識

を知るためのアンケートを実施しました。

そのうえで、まずは「私たちはほとんど理解できていない」ということを前提に、その「理解できていなさ」を出し合うことから始めようじゃないかと、ざっくばらんな座談会を開いてみました。

座談会のようすを、2回に分けて、皆様にもお届けします。

いっしょに考えていただけたらうれしいです。

座談会メンバー

マナ：女性
ケビン：男性
こんち：女性
ビッシー：女性
山ちゃん：男性
やきそばパン：女性



あるだろうなと思います。
やきそばパン…元男性でカミングアウトしている人が多いような気がするんですが…。テレビの出演者も、ゲイの人が多いですね。元女性も、カミングアウトしてくいのかな？

マナ…言われてみれば…。そういうところにも、不思議に男性優位な社会構造があるんでしょうか…？

ケビン…ゲイバーという働く場、交流の場が、わりと古くからあったことも影響してるのかな？

ビッシー…教師をしているレスビアンのカップルを知ってますが、生徒や保護者に知られると危険視されるので、自分たちの関係を公表してないです。私は中学生の時に、歴史上の人物を題材にした漫画を読んで、物語がだいぶん進んだところで、男性同士のキスシーンが出てきました。そこでようやく「ああ、そういう世界があるんだ」と初めて知って、なおかつ、それまでのストーリーがばつと理解できた。それからは歴史上にもあることだし、普通のことなんだと思って今日まできました。その漫画がなければ、閉鎖的な田舎育ちだし、タブー視していたかもしれません。

山ちゃん…LGBTQの人と、出会ったことがないので、実際に会ったかどうかというふうに思うんですが、ただ、私は色めがねをかけて見ないとは思いますが。ビッシーさんが漫画で情報を得たように、情報を知ることとはとても大事。たとえばアフリカの文化の人とどういうふうにつき合ったらよいのか、自分にはわからないですが、アジアの人は少しわかるような気がします。その差は、情報量の多い少ないだと思っています。あと、LGBTQを理解することは、別の文化をどう受け入れるかということに似ているのではないのでしょうか？たとえば食文化。昆虫食とか、ぼくには受け入れにくい。

マナ…最初から昆虫は「食べ物ではない」として育ったら、受け入れにくいですね。欧米人は日本人が

それに似た経験、僕にもあります。イギリスでの経験でしたが。

全員…おおっ…！

マナ…アメリカとかイギリスとか、日本以外で起こりがちなんですね。しかも相手は日本人じゃないんですね。

ケビン…若かりし頃、貧乏旅行してたときに、親切にしてくれるおっちゃんの家泊めてもらったんです。「ソファに寝ます」と言ったら「一緒にベッドで寝たらええやん」と。直接的なことは何もなかったけど、あきらかに性的対象として見られていた。親切に對してはいいねいにお礼を申し上げたけど、気持ち悪さは残った。いやだった。

マナ…それは男の人だったから？たといえば、全然自分の好みではない女の人から誘われたら？

ケビン…あ、そう言われると、それに近いかもしれない。男であれ女であれ、今までは普通にしゃべってたのに、気持ち悪いと。

やきそばパン…恋愛感情としての「好き」と、体が目的というのは、また全然反応が違ふと思う。

こんち…そう言えば、私がもらったラブレターは、情熱的に性的な関係を求める内容でした。普通に「あなたが好きです」ではなくて。男性から同じ内容の手紙もらったら、やっぱり同じ拒否反応だったかも。ただ、男性は、いきなりそんなこと書かないでしょ？

マナ…たしかに。セクハラになりますよね。ではなぜ、フランス人の彼女は、そんな手紙をこんちさんに書いてよこしたんでしょう？

こんち…今思えばですが、彼女は私と一緒にいる間、淡い恋心から性的欲求まで、いろいろなものを抑えていたんだと思います。それが一気に爆発したのがあの手紙だった。私はそんなこと全然知らないのに、無邪気に同性の友人といふときの気楽さで、好きなようにふるまっていたが、そんな私の態度も、彼女にとっては苦しかったかもしれない。だとすると私の生理的拒否反応は、相手がレスビアンだから

タコを食べるの、受け入れ難いらしいです。

こんち…私は仲良しの友人がゲイでした。ややフェミニンな雰囲気イケメン。周囲からは私たちが付き合っていると思われるいたかもしれない。

ケビン…個人的に親しくなると、人となりを知っていくと、個人的な情報量も多くなるわけで、その人については難なく受け入れられるように思います。打ち明けられたときのショックはあるかもしれないですが。

マナ…まずは、知ることが大事ということですね。知ること、友人として、同僚として、ご近所さんとして普通に付き合うことはそんなに難しくないのかもしれない。



同性から「好きだ」と告白されたら…？
マナ…食べ物、食欲という生理的欲求と結びついて、直接、自分の中に取り込んでいくものです。たとえば昆虫食についていろいろ知っているから虫を食べられるかという、そういうものではないと思うのです。性的関係も同じようなことが言えないでしょうか？あなたが同性から、友人ではなく、より密接で直接的な「恋愛対象」「性的対象」として見られたらどんな反応をするでしょう？

こんち…じつは…アメリカに留学していたとき、最初に友達になったシンガポール人の男の子がいました。右も左もわからない孤独で不安な私に、シンガポール人S男くんはとても親切で優しくかったです。彼と日本人のJ男くんと私と3人、助け合いながらよく一緒に過ごしました。ある日、そのシンガポール人S男くんから「話がある」と言われたので、てっきり「告白される」と思ってドキドキして会いにいったんです。そしたらいきなり「実はぼく、日本人J男くんと付き合っている。結婚制度があるモントリオールに行って、結婚することにした。結婚式には

ぜひ来てくれ」と言われたんです。私は好きな人がゲイで失恋はするし、その相手が親友のJ男くんだし、二人はそんな私を置き去りにしてさっさとモントリオールへ行ってしまふし、パニック三連発でした。
全員…おおっ…！
マナ…告白は告白でも、全然違う告白だったんですね。結婚式には行つたんですか？
こんち…行くわけじゃないですか！で、その逆バージョンもあったんです。フランス人の女の子から、思いつめた感じのラブレターをもらった。全員…おおっ…！
やきそばパン…どんな気持ちになりました？
こんち…だめでした。生理的にものすごく拒否反応が出た。自分が彼女の性の対象になったことが気持ち悪くて、「私を見ないで」と思って、彼女を遠ざけました。ゲイの人になられた前段があるのに、自分が告白されたら、こんな反応になるのかと思った。
やきそばパン…それは同性からの告白だったからですか？たといえば異性からの告白だったら？
こんち…異性からだったら、生理的にはそんなに気持ち悪くなかったと思うんです。
山ちゃん…ぼくもきつとそうだろうなと思います。経験ないけど。きつとそうなるだろう。
ビッシー…私は、友達だと思っていた異性から告白されたとき、こんちさんとおんなじ反応だった。なんで？って。すごく仲良しの友達だったのに、いやだ！気持ち悪い！と思いました。
こんち…異性でもですか？生理的な拒否反応って、なんでしょうか？それと、そういうふう拒否反応が出ることはいけないことなのかな？私は彼女にどういう態度をとるべきだったんだろう？
ケビン…LGBTQの人を隣人としてどう受け入れるかという冷静な部分と、自分が恋愛の対象になったときの生理的な反応は、ちがったものになると思います。じつは、



ではなく、いきなり性的な関係を求められたからか
もれません。

LGBTQ その生きづらさとはなんだろう？

ケン…ぼくのLGBTQに関する今と昔の受け止め方の違いは、報道などでLGBTQの人が生きづらさを抱えていること知ったからだと思います。昔は「変な人」のくくりで、「おかま」とか「ホモ」とかちやかすようなことを言っていた。極端にいうと、大人の性的指向が子どもに向くと同じような不健全さを、LGBTQの人にも持ってしまったいたのかもしれない。でも、生きづらさや悩み、痛みをもつ一人の人としてみるようになったときに、真面目に考えないといけないと思うようになりました。一人の人に恋をし、人格として大事に思っ、一緒に生きていきたいと思う。その対象がたまたま異性ではなかった。そういう人がいることに気づいたことは、大きいことだと思います。

やきそばパン…性的マイノリティのことをいろいろ調べたら、LGBTQだけでは表せないくらい、ものすごく幅があることを知りました。たとえば恋愛対象は異性愛者の同性だけ、という人もいたりして。絶対成立しない悲しい恋ですよ。日によって男性傾向になったり女性傾向になったりする人とか、誰に対しても恋愛感情を持ってない人とか。とにかくいっぱいありすぎて、途中で「おぼえられへん」とあきらめました。

マナ…私たちはつい「性的マイノリティ」とひとくくりにして、その人達の共通した悩みや苦しみだと考えがちですが、一人ひとりまったく違うんですね。**ケン**…障がい者支援でも、障がい者の共通したニーズとして捉える部分だけでなく、一人ひとりまったく違うニーズとして捉える部分があるのと同じですね。

山ちゃん…性的マイノリティの人の生きづらさは、

やきそばパン…ということは、その先輩の奥に理想の男性像をみているということだったかもしれませんね。

福祉はLGBTQの人たちを、 どんなふう to 受け入れていけば いいのだろう？

マナ…福祉の仕事をしていて、LGBTQにまつわる問題で困っているというのは、今のところあまり聞かないですが、どうでしょう？公表できない人が多いということでしょうか？じつは今現在も、こっそり困っている人がいるのかもしれないです。

ケン…LGBTQの人が、入所施設やグループホームに入ったとき、トイレやロッカールームの問題をどう解決していくのか、これからいろいろ出てきそうですね。

ビッシ…受け入れ側としても、男性の風貌の人が急に女子トイレに入ってきたら、びっくりしますよね。

こんち…「この人は女の人」と頭を切り替えて意識づけしないと、なかなかむずかしい。「私は女の人にはぜんぜん興味ないですから、安心してください」と言われても…。本人がどういう環境ならOKなのか聞いて、周囲もそれでOKなのかをしっかりと聞き取って環境を整えることが必要。

山ちゃん…LGBTQの人が入所・通所して来ることがあることを、あらかじめ利用者に知っておいてもらうことも必要ですね。

ケン…ただ、実際に利用者として来られて対応するときには、繊細な問題をはらんでいる。周囲の理解を得るためだからと言って、個人情報をごこまで出してよいのか？公表したくないという人もいますし。うし。受け入れる側の利用者の気持ちにも配慮が必要になります。

こんち…「これは、どうなんや？」というケースが一回ありました。障



何が原因なんでしょうか？社会から偏見の目で見られたり、差別されたりするから？

ビッシ…同性婚を合法化したら、自殺率が下がったという例もあります。やはり社会から認められないことが生きづらさの一番の原因になると思います。日本だと、入院や手術のとき、家族としての同意書にサインができなかったりということもあり、ストレスですよ。

日常の暮らしの中では 恋人が見つからないつらさ

こんち…さきほどの私の友人は、フェミニンサイドのゲイ。私としゃべるときは、自分のことを「あたし」と言っ。職場では少し男性的な感じで「ぼく」だそう。彼はH-I-Vに感染してしまいました。

マナ…つらいですね。ゲイ・エイズみたいな間違った情報が出回ったこともあり。ただ、感染リスクはやはり高いのでしょうか？

ビッシ…クイーンのボーカルのフレディがH-I-Vで亡くなったときは、ゲイだからショックというよりは、なんでもうちよつとちゃんとしてくれなかったんだらうという気持ちが強かったです。

こんち…感染したゲイの友人の話では、恋愛対象との出会いの場が、ゲイバーしかなかったとのこと。残念ながら性的欲求を満たすためにだけにゲイバーに来る人もいて、しかもそこはお酒の場、遊びの場です。よく知らない相手とゲイバーで出会い、性的な関係を持ってしまったときに相手がH-I-Vだった。日常生活のなかで惹かれあつて恋愛に発展するというケースが望ましいけど、出会い方の限界があるのだと、彼は言っていました。

山ちゃん…本来、恋愛の先にあるのは性的なものだと思うので、好きになるということは、肉体的なコンタクトをとる方向にいくものですね。

マナ…性的マイノリティの人達の恋愛の場は、極端



害の診断を受けた戸籍上男性で、本人曰く「性同一性障害。ここは女性」の人です。「ここは女性」なので、介助者は女性を希望。ところが、入浴介助のとき、密室で男性性器を洗わないといけないくて、洗っていると興奮してきてるのがわかる。しかも彼は「性器はものすごく大事なことだから」と、洗い方と手入れの仕方を細かくヘルパーに指示。その通りにしないと声を荒げて怒る。正直なところ、そこは自分でも洗えるのではないですか？という気もする。そのヘルパーさんは精神的に追いつめられてギブアップ。居宅介護事業所もヘルパーを守らなければならないので、「うちではもう無理です」となりました。

ケン…福祉のサービスの場合、性別はあくまでも自己申告ということですね？

こんち…彼は自分の性を使い分けているようにも感じました。

ビッシ…入浴介助のヘルパーに性的なことをさせようとしたのなら、絶対だめです。

やきそばパン…性別もLGBTQも障害も関係なく、アウト。人としてダメ。

ケン…ヘルパーの仕事の範疇ではなく。ハラメントですね。

山ちゃん…ヘルパーもその人にぴった合うLGBTQの人だったらうまくいくとか…？

ビッシ…自分の性的な欲求を満たすための行為を強要すること自体が、誰に対しても絶対だめなこと。です。

こんち…ふつうの入浴介助だったのに、いつのまにか興奮してしまう…ということはありえるかもしれません。

マナ…入浴介助中に反応してしまっことを「ああ恥ずかしい」と思う障がい者、その気持ちをちゃんとくみとって、何事もないかのように自然な介助を続けるヘルパーというのはあると思います。



に狭いということですね。そしてその狭い世界の中で病気が感染していく。普通の暮らしの中で好きな人ができて、こんちさんの話にあつたように、その人に告白すること自体、大きな精神的リスクがありますね。

こんち…フランス人の彼女に「私の部屋に来ないで」「私はノーマルなんだから」と強く言い放ったとき、彼女は涙をいっばいためて、ものすごくかなしそうな顔をしていました。その顔がこころに焼き付いて忘れられません。

マナ…それは、後悔？

こんち…友達としては、全然OKだったのになあと。思います。もしあの頃に戻れるなら、あんなふうな態度はとりたくない。もっと言い方があつたらうに、あんな言い方をするなんて、今は思います。申し訳ない気持ちでいっぱいです。

中高生女子あるある 「同性愛のような気持ち」

やきそばパン…中学や高校のとき、同性の先輩にあこがれたりしませんでしたか？

女性職員…（口々に）あつた、あつた。

やきそばパン…だから、同性を好きになる気持ち、まったくわからないわけではないような気がします。男子はどうでしたか？同性の先輩に恋心を持つ時期とかないですか？

男性職員…（いっせいに）それはない。
山ちゃん…尊敬する、はありましたが。
ケン…かつこいい、もあつたけど、恋ごころにはなりません。

こんち…女子特有なのかな？ドキドキするとか、キヤキヤ言うとか。思春期に一時的に、同性に恋心を出だく、あこがれるとか。
マナ…でもね、その対象になる女子の先輩って、ちよつとボーイッシュだったりしません？

こんち…ああ、そうかも。



そこはプロの仕事の範疇ですから。ただ、「ここは女性」の人が、あえて自ら興奮するようなやり方をヘルパーに強要しているとしたら、そういう状況を悪用した手口かも、という気がします。

こんち…LGBTQや障害の問題ではなくて、本人自身の人格的な問題ですね。

マナ…そうだと思います。でもLGBTQや障害を持ち出して、介助ぎりのセクシャルハラスメント的なことを強要してきたときに、支援者の側がどういふふうに対応していったらよいのかというのは、考えさせられる問題ですね。きまじめな支援者は、障がい+LGBTQの人に対してダブルで「差別はいけない。偏見をもつてはいけない。」という方向に意識が強化され一生懸命指示に従おうとがんばってしまう。そして、精神的にやられてしまっ。

ケン…LGBTQや障害を隠れみのにして、性を偽るということが出てきたときに、それをどう見抜くかは難しいし、その対応となるとと難しい。

こんち…障がい者福祉でも、本当にしんどい状況にいる人と自称しんどい人を見極めて、どう働きかけてどんな支援をしていくのかは、とても難しいと感じています。本当に生活に支障をきたしている人、本当に困っている人、生きづらさのなかに苦しんでいる人の支援にまで影響しますから。

（からしだね通信12月号 Part.2 につづく…）

「LGBTQの受け入れを通して、 自分の価値観・倫理観を問い直す」

からしだねはキリスト教を土台にしていますが、キリスト教の教義としてLGBTQは大丈夫なんですか？といった話もしました。





主任 鍋島愛信
(精神保健福祉士・社会福祉士)

ワークス報告

からだねワークスの活動に関心をもっていたいただき、またご協力いただきありがとうございます。

早いもので今年も半年が過ぎ、後半にさしかかって参りました。昨年4月以降は新型コロナウイルスに翻弄された1年でありましたが、立場を超えて皆おなじような苦しさやもどかしさを感じていられたと思います。

からだねワークスでは昨年に、閉店を余儀なくされた京都の老舗キリスト教書店（CLC京都店）を引き継ぎ、からだね館開設以来営業してきましたカフェ・トライアングル（昨年4月から営業自粛を続けていた）とをブックカフェとしてリニューアルオープンさせる計画を立て、今年3月からスタートさせました。現在もコロナ禍中ではありますが、感染対策を徹底しながら営業を続けております。カフェが再開されてことにより、カフェのスタッフはイキイキと業務をこなし、厨房も活気を取り戻しています。

コロナ禍中ですので書店もカフェも大賑わいとはいきませんが、ワークスの利用者さんも働く喜びを改めて感じておられる様子が伺えます。ある意味、コロナの影響で働きたくても働けない時期を過ごしたからこそその喜び

だと思えますし、コロナによって失ったもの（こと）、諦めなければいけなかったもの（こと）、抑えてきたもの（こと）など、多くの犠牲やマイナス要素がありました。それと共に得たもの、気付けたこと、感じられたことなど、プラスの要素や喜び、感謝、希望を見出したことはとても大きなことだと感じています。

ワークスには1日20数名の方が来られ様々な仕事に取り組んでおられます。その中には一日も早く就職したいと頑張っておられる方、働ける限りワークスを自分の職場にしたいと頑張っておられる方、仕事をして自分の生活を成り立たせていきたいが体調や生活リズムが整わず、仕事をするスタートラインに立とうと頑張っておられる方などがおられます。

新型コロナウイルスで仕事は減り、就職活動も厳しい今をなんとか乗り越えていく先に、それぞれの人にとっての喜びや希望が見出せるよう私たちも知恵を絞る、汗を流していきます。

引き続き「からだねワークス」の働きにご支援・ご協力のほどよろしくお願い致します。

コロナ禍の業務も2年目に突入し、早くも後半の歩みを進めています。先日、からだねセンターの相談内容をまとめる作業をしながら、私たちが出会った人たち、彼らの抱える問題や課題、そこから見える社会、そんなことに思いを巡らしていました。コロナ禍でもいろんな相談を受けてきました。コロナ以前からの相談が継続する中で、ここ1、2年は住居がらみの相談が増えたように思いました。住居がらみと言っても様々ですが、家ごみ屋敷状態になっていたり、幻聴や妄想などからとった行動による近隣とのトラブル、ホームレス状態の人や、刑期を終えて出所する触法障がい者の住まい探し、などです。

地域の中で暮らしていくためのなくてはならない住居、そこに住み続けることが難しいということは、生活の基盤そのものが定まらず、心身共に不安定な状況である、ということです。住まうことを抜きにして、他のサービスを調整しても、本当の意味での安定した暮らしは実現できません。

住居の支援に入って見えたことを一部シェアします。（ポイントだけが伝わるように、他の情報は変更しています。）

介護保険の相談員さんから、40代の男性の支援に入れないかと連絡が入りました。80代の女性が自宅で転倒し、複数か所を骨折、病院に救急搬送されました。介護保険の担当者が初めて女性のお宅を訪問し、40代後半の息子が同居していたことがわかりました。

自宅は荒れ放題。大人二人が今まで一体どのように生活をしていたのか…。

息子さんはアルコール依存症で、部屋にはお酒の空き缶、空き瓶がうずたかく積まれていました。家賃の滞納もあり、大家さんからは立ち退きを命じられていました。お二人の今後のために、息子さんが一人で暮らす部屋を見つけること、そこで息子さんが暮らしていくために必要な支援を調整することになりました。

40代女性のA子さん。こころの病による症状が強く、夜昼かまわず大きな声で見えない敵と戦ってしまっています。近隣からの通報で何度となく警察の介入があり、入退院を繰り返しています。Aさんが落ち着いている時に、大きな声を出さないように伝えようと、絶対大声は出さないと約束してくれるので

センター報告

主任 武山世里子
(精神保健福祉士)



ですが、体調が悪くなると、コントロールができなくなってしまうのです。とうとう大家さんにも翌月中に家を探して出て行ってほしいと言われてしまいました。症状を改善すること、家探しを同時に始めることになりました。

30代後半のB男さん。京都駅周辺で倒れて病院に救急搬送。てんかんの発作だけでなく、薬物依存の問題を抱えていることがわかりました。これまでも、いわゆるホームレスとして、京都駅周辺で場所を変えながら転々としていました。身寄りのない彼は、家を借りるにもなかなか審査が通りません。将来をあきらめているかのような彼を見ていると、すぐにでも路上に戻るような雰囲気です。そんな彼に何とか住むところを、と探すことになりました。

住まいを探すことは簡単ではありません。家賃や環境が気に入っても、審査が通らなかつたり、審査が通つたとしても、病院や施設に通所するのが不便だったり…。ご本人と喜んだり悲しんだりしながら家探しをしています。家を見つけることは確かに大変です。しかし、それが一番大変なことではないなと感じています。家があるだけでは、その人の暮らしがそこに「根付く」ことにはなりません。家とともに、「つながり」を見つけないと、そこに暮らし続けることができないのです。この「つながり」を見つけることが実はとても大変で、まだまだ十分にできていないと感じています。

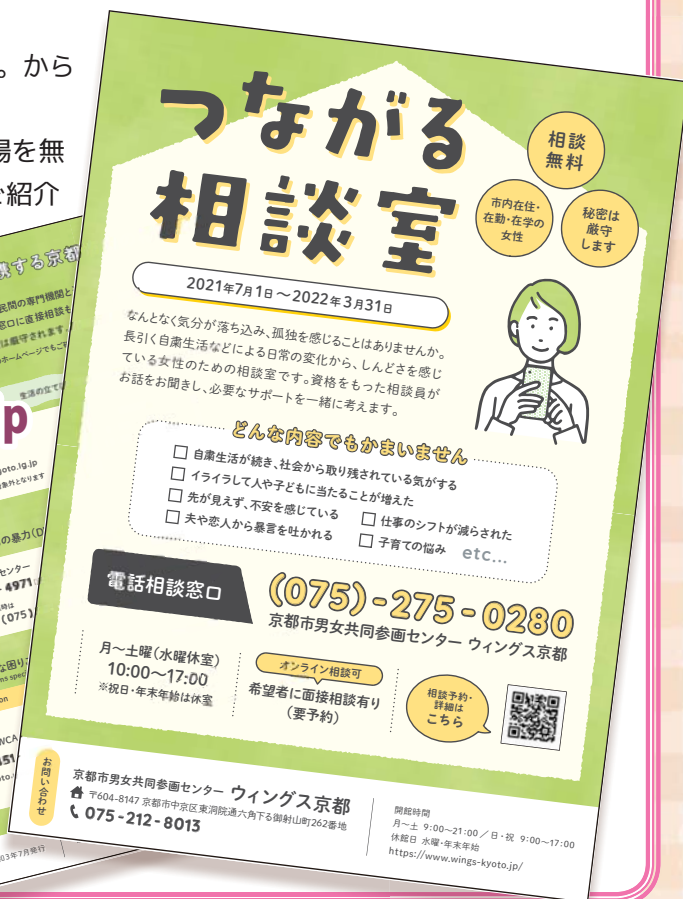
〇〇さんにとっての「つながり」ってなんだろう…。△△さんにとっての「つながり」は？こんなことを考えながら、住居に関する課題にこれからも取り組んでいきたいと思っています。

窓口になりました!

「不安を抱える女性に寄り添った相談支援事業」

京都市では、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、不安や困難・課題を抱える女性に寄り添い、社会とのつながりを回復するための事業を行っています。からしだねもこの事業に協力していますので、もし、お近くに、生活にお困りの女性、DVや虐待などで行き場を無くした女性や子どもさんを見かけたら、からしだねをご紹介します。国籍、LGBTQ等は問いません。経済的な理由で生理用品を購入できない方に生理用品の提供も行っております。

電話 **075-574-2800**
Mail **center@karashidane.or.jp**



後援会にご協力を...

後援会入会・継続には、同封の振込用紙をご利用ください。寄付金控除領収書をご希望の方は、振込用紙の通信欄に「寄付用領収書希望」とお書きください。

年会費 個人様 1口 3,600円
団体様 1口 10,000円

会費振込先 郵便振替 口座番号: 00970-2-222380
加入者名: 社会福祉法人ミッションからしだね後援会

※既にお振込みいただいている会員様は、お見過ごしください。



(編集後記)

この1年は、就労支援事業のひとつとして、ブックカフェの開設と運営のために、一生懸命にエンジンをふかし続ける毎日でした。そんなこんなで、からしだね通信の発行がずいぶん遅くなってしまいました。本当に申し訳ありません。キリスト教書店をそのまま引き継がせていただいたので、もちろんキリスト教の書籍が中心ですが、その根底の思想は、「いのちの尊さ」「人間の尊厳」です。コロナで世界が大きく変わり、経済の仕組みや動きもずいぶん変化したように思いますが、からしだねはますます、いのちの尊さと人間の尊厳、自由や平和の中に実現する福祉の実践を目指していきたくと思います。LGBTQについては、12月号で続きをお届けします。

からしだね通信の次号は2021年12月の予定です!

書店だよりは、毎月発行です。こちらで、お読みいただくことができます。→→→→→→→→→→→

